

中小企業あきた

1 秋田市中心街に「エリアなかいち」オープン..... 1

～商店街組合等との連携に期待～

2 農商工連携実践スクール開講..... 3

3 農商工連携事例を学ぶ..... 4

～東北・北海道ブロック指導員研究会～

- 中小企業組合等支援施策情報..... 5
- 景況レポート6月分..... 7
- 日本列島組合探検隊..... 13
- 組合相談コーナー..... 13

- 話題の広場
- 中央会事業より..... 14
- 支援団体活動レポート..... 15
- アラカルト..... 16
- インフォメーション..... 17
- 組合ティールーム..... 18



TOPICS



秋田市中心街に「エリアなかいち」オープン

～商店街組合等との連携に期待～

7月21日(土)、秋田市中通の日赤・婦人会館跡地に「エリアなかいち」がオープンしました。

1998年に秋田赤十字病院が郊外に移転し、再開発準備組合が組織されてから15年の歳月を経て、中通再開発地区として生まれ変わりました。



【核店舗のサン・マルシェ】



【にぎわい交流館】



【新県立美術館】

「エリアなかいち」は、商業棟、駐車場、住宅棟、新県立美術館、にぎわい交流館からなり、商業棟は、みやげ品を含む食料品関係が18店舗、飲食店が6店舗、食品以外で4店舗と食料品が中心の構成となっています。

今後は、秋田市の顔として、中心市街地再生の切り札として、多くの期待が寄せられています。

◆会員組合も出店しています

臨海食品協業組合(矢吹達夫理事長)はサン・マルシェに「豆腐庵小町」を出店しました。

豆腐庵小町では、秋田県産大豆「りゅうほう」を使用し大豆の薄皮を剥いて混ぜ込んだ風味豊かな寄せ豆腐や、豆乳を使用したスイーツなど、通常、小売店に納品する商品とはひと味違った品揃えで、皆様をお待ちしております。

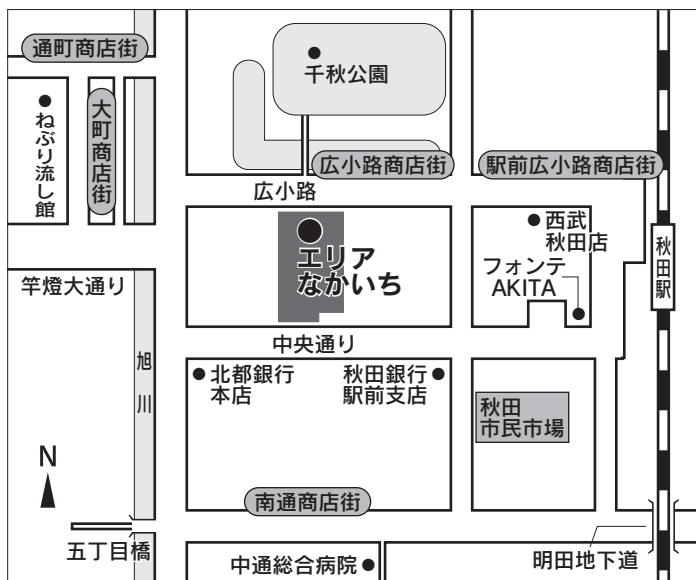
組合では、現在、高付加価値商品の開発に力を入れており、豆腐庵小町を「新商品や既存商品のアンテナショップ」と位置づけて、消費者の直接的な意見や反応を今後の商品開発に反映させることとしています。



【豆腐庵小町の商品】

「エリアなかいち」周辺の商店街等の反応は？

本会では、「エリアなかいち」のオープンによる周辺商店街等への影響を調査するため、オープン後の商店街等の状況や今後の取り組み方について、それぞれ組合理事長にお聞きしました。



秋田市駅前広小路商店街振興組合

(平澤孝夫理事長)

- ・当商店街は今のところそれほど人が増えたように感じていませんが、これから波及効果がでてくるように期待します。
- ・小売業はなかなか厳しい状況ですが、当商店街の近くにあれだけの施設ができましたので、商店街側もさまざまなイベントを打ち出し、相乗効果で秋田市を盛り上げられるように頑張りたい。

秋田市広小路商店街振興組合

(佐々木清理事長)

- ・当商店街においては、従来からの年配客層の他、特に、土日は家族連れが多くなっています。
- ・「なかいち」に頼るだけでなく、当商店街の課題である融雪歩道等ハード面の整備や、特色のある個店の創出によって、当商店街の商業環境を整備し、来街者の増加を図りたい。

秋田市南通商店街振興組合

(三戸俊信理事長)

- ・当商店街では、来街者の増加を実感するには至っていません。
- ・当商店街を通過する中心市街地循環バスが試験運行されており、今後の来街者増加に期待するとともに、商店街のにぎわいづくりのための活動を充実させていきたい。

秋田市大町商店街振興組合

(高堂裕理事長)

- ・オープン当初は、「なかいち」効果で来街者が多かったが、現在は元の状態に戻っています。ただ、当商店街は100円循環バスの試験運行ルートとなっており、今後、バスの利用客が当商店街にも滞在してくれることを期待しています。
- ・「なかいち」と「大町商店街」が動線としてつながり、中心市街地の一体的な集客を図りたい。当商店街においては、誰でも気軽に歩いて楽しめ、交流と憩い、癒しのコミュニティ機能を持った商店街を目指します。

秋田市通町商店街振興組合

(佐藤政則理事長)

- ・当商店街は「なかいち」から少し離れているため、今のところ来街者が増えたようには感じておりません。
無料の駐車スペースができれば、時間の制約がないので足を伸ばしてもらいたい。
- ・商店街のにぎわいづくりについては、隣接する秋田市大町商店街振興組合や秋田パティオ協同組合と合同でイベントを開催していますが、機会があれば「なかいち」との連携も考えてみたいです。

協同組合秋田市民市場

(川村忠理事長)

- ・「なかいち」による影響や効果についてはまだ何ともいえません。
- ・市民市場は今年設立50周年を迎え、これまで以上に市場の強みである相対接客を重視しサービス向上を図り、顧客満足度を高めていきたい。また、循環バスの運行等により中心市街地に人の流れが生まれることを期待したい。

各商店街組合等では、「エリアなかいち」との連携を視野に入れながら、それぞれが工夫をして中心市街地を盛り上げていきたいという意気込みが見受けられ、今後の秋田市全体の「賑わいづくり」への大きな第1歩になることが期待されます。